

RS ウイルス感染症の予防接種についての説明書

RS ウイルスとは

RS ウイルスは、一般的には乳幼児の呼吸器感染症の原因ウイルスとして知られています。その一方で、高齢者や基礎疾患のある成人においても、RS ウイルスは、肺炎などを引き起こすこともあります。

このウイルスによる成人も含めた感染症患者の75%が1歳以下の小児で占められており、2歳までにほぼすべての小児が少なくとも1回は感染すると言われていています。成人においては、慢性呼吸器疾患や免疫不全などの基礎疾患を有する高齢者において、急性の重症肺炎をおこす原因となることが知られています。また、長期療養施設などの介護施設で感染症の集団発生事例もあり、感染予防と対策が重要となります。

予防接種の対象となる方

かほく市の助成制度対象者

RS ウイルス感染症

RS ウイルス感染症は、RS ウイルスの感染によって引き起こされる呼吸器感染症です。

症状：

生後1歳までに50%以上の乳幼児が、2歳までにほぼ100%の小児がRSウイルスの初感染を受けます。小児では2日～1週間（通常4～5日）の潜伏期間の後に、初感染の乳幼児では上気道症状（鼻汁、咳など）から始まり、その後下気道症状が出現します。その際、38～39℃の発熱が出現することがあり、25～40%の乳幼児に気管支炎や肺炎の兆候がみられます。さらに、1歳未満、特に6か月未満の乳児においては、心肺に基礎疾患を有する小児、早産児が感染すると、呼吸困難などの重篤な呼吸器疾患を引き起こし、入院、呼吸管理を必要とすることがあります。

成人では、典型的には4日～6日の潜伏期間を経て、発熱、鼻水といった風邪のような症状が現れ、通常、自然軽快する事が多いですが、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症では、肺炎の合併が認められるとの報告もあります*¹。米国のデータによると、RSウイルス感染症で入院した患者のうち、約半数（47.4%）が入院中に肺炎を合併したことが示されています*²。また、2019年の国勢調査データをもとに推計した報告によると、わが国では60歳以上の成人でRSウイルス感染症によって年間約62,000（40,600～96,748）人の入院と、約4,400（2,194～9,057）人の院内死亡が推定されています。*³。

*1：「注目すべき感染症：RS ウイルス感染症」国立感染症研究所 IDWR 26(15), 15th week 2024 <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2024/idwr2024-15.pdf> 2024年8月現在

*2：Ackerson B, et al.: Clin Infect Dis 69(2):197, 2019

*3：Savic M, et al.: Influenza Other Respir Viruses 17(1):e13031, 2023

治療・感染予防策：

RSウイルス感染症に特化した治療薬はなく、対症療法となります。

一般的な感染予防として、咳やくしゃみが出る場合にはマスクの着用、日常的に触れる物のアルコールまたは塩素系の消毒薬による消毒、流水と石けんによる手洗いが重要です。また、アルコール製剤による手指消毒も有効です。

早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクの乳幼児には、重症のRSウイルス疾患を予防するための予防薬を使用する場合があります。使用については医師の判断になりますので医療機関などに問い合わせてください。

ワクチンは、60歳以上の方を対象としたものと、新生児の感染予防を目的とした妊婦向けのワクチンが承認されています。

RS ウイルスワクチン：

2025年4月時点で、日本国内に2種類のRSウイルスワクチン（GSK社製およびファイザー社製）が認可されています。GSK社製ワクチンは60歳以上の成人に加え、RSウイルス感染症による重症化するリスクが高いと考えられる50歳以上の者への接種が可能です。ファイザー社製ワクチンは60歳以上の成人

と、新生児の感染予防を目的とした妊婦（母子免疫ワクチン）への接種が可能です。GSK社製とファイザー社製のワクチンは接種対象が異なるので誤接種することがないように十分注意する必要があります。

	組み換えワクチン（GSK社）	組み換えワクチン（ファイザー社）
ワクチン販売名	アレックスビー筋注用	アブリスボ筋注用
接種回数（接種方法）	1回（筋肉内に接種）	1回（筋肉内に接種）
接種対象者	○60歳以上の方 ○50歳以上のRSウイルスによる感染症が重症化するリスクが高いと考えられる者* ¹	○60歳以上の方 ○妊婦妊娠24～36週の方* ²
60歳以上を対象とした 予防効果 接種後1シーズン目	82.6% ・重症化リスクの高い基礎疾患を有する方：94.6% ・サブタイプA：84.6% ・サブタイプB：80.9%	66.7～85.7% ・サブタイプA：88.9% ・サブタイプB：56.5%
接種後2シーズン目	67.2%* ³ （継続試験の結果で延長あり）	該当データなし
接種に注意を要する方	妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。* ⁴	
併用注意* ⁵		沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン* ⁶

*1：50歳以上のRSウイルスによる感染症が重症化するリスクが高いと考えられる者とは、以下のような状態の者を指します。

- ・慢性肺疾患、慢性心血管疾患、慢性腎臓病又は慢性肝疾患
- ・糖尿病 ・神経疾患又は神経筋疾患
- ・肥満
- ・上記以外で、医師が本剤の接種を必要と認めた者

*2：妊娠28～36週の間に接種した場合に有効性がより高い傾向が認められています。

*3：アレックスビー承認時評価資料：国際共同第Ⅲ相試験（RSV OA=ADJ-006試験）より（添付文書上の記載なし）

*4：妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、妊娠終了まで接種を延期することが望ましい。

*5：医師が必要と認めた場合には、他のワクチンと同時に接種することができる。

*6：百日せき菌の防御抗原を含有するワクチンの単独接種と比べて本剤との同時接種で百日せき菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告がある。

引用：アレックスビー筋注用添付文書より
アブリスボ筋注用添付文書より

筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注射部位の出血のおそれがあるため注意が必要です。

その他に、接種前に発熱を呈している方、重篤な急性疾患に罹っている方、それぞれのワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方等はいずれのワクチンも接種出来ません。

また、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方、けいれんを起こしたことがある方はいずれのワクチンについても接種に注意が必要です。

母子免疫ワクチン：

母子免疫による生後6か月までの乳児における医療機関の受診に至った下気道疾患に対する有効性

	組み換えワクチン（ファイザー社：アブリスボ筋注用）
生後90日	57.1%
生後120日	56.8%
生後150日	52.5%
生後180日	51.3%

引用：アブリスボ筋注用添付文書より

ワクチンの安全性：

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の 発言頻度	母子免疫を目的とした妊婦への接種の場合	60歳以上の成人に接種した場合	
	組み換えワクチン (ファイザー社：アブリ スボ筋注用)	組み換えワクチン (GSK社：アレックスビー 筋注用)	組み換えワクチン (ファイザー社：アブリ スボ筋注用)
10%以上	疼痛（注射部位）、頭痛、 筋肉痛	疼痛（注射部位）	疼痛（注射部位）
1～10%	紅斑（注射部位）、腫脹 （注射部位）	紅斑（注射部位）、腫脹（注 射部位）、頭痛、疲労、発熱	紅斑（注射部位）、腫脹 （注射部位）
1%未満		過敏症反応（発疹など）、鼻 漏、そう痒感（注射部位）、 悪心、腹痛、筋肉痛、関節 痛、リンパ節症、疼痛、倦怠 感、悪寒	過敏症

引用：アレックスビー筋注用添付文書より

アブリスボ筋注用添付文書より

他のワクチンとの同時接種：

いずれのRSウイルスワクチンについても、医師が必要と認めた場合にはインフルエンザワクチンや新型コロナウイルスワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、ファイザー社の組み換えワクチンについては、沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンとの併用には注意が必要です。（本剤との同時接種で百日せき菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があるため）

接種を受けた後の注意点：

ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。

注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。

当日の激しい運動は控えるようにしてください。

予防接種健康被害救済制度について：

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

予防接種による制度の利用を申し込む時は、市ホームページの「予防接種健康被害救済制度について」のページをご確認ください。

任意予防接種の助成金制度を利用する方法・費用

かほく市では令和7年4月1日から、RSウイルスワクチンの接種費用助成を行います。

接種の可否、接種にかかる費用等については実際の接種を希望する医療機関にお問い合わせください。

	母子免疫を目的とした妊婦への接種の場合	60歳以上の成人に接種した場合	
	組み換えワクチン (ファイザー社：アブリ スボ筋注用)	組み換えワクチン (GSK社：アレ ックスビー筋注用)	組み換えワクチン (ファイザー社： アブリスボ筋注 用)
任意接種による接種費用*1	約・・・円	約・・・円	約・・・円
助成額	・・・円	・・・円	・・・円

*1：接種する医療機関によって費用は異なります。実際の接種費用については各医療機関にお問い合わせください。